

大崎第一
地域ニュース

はなぐるま



第

100

号

2012. 4. 20

いつもご愛読いただきありがとうございます。
おかげ様で100号を迎えることができました。

編集 はなぐるま編集委員会
〒141-0031 品川区西五反田3-6-3
TEL:3491-2000
sakilc@city.shinagawa.tokyo.jp
発行元 大崎第一地域センター



いつも明るく元気にを motto に…
服部 美代子



確実に誠実に充実を目指して…
斉木 稔



そよ風に 吹かれて今日も はなぐるま
編集長 久保田 公二



ガリ版の頃から早や20年、よい勉強になりました。
加藤 みよ子



皆様もお仲間になりませんか。
宮森 和子



櫻舞う ゆくもおくるも心一つ
村山 千春

-目次-

＊ **100号までのあゆみ** (年表) 4～7ページ

＊ **わが街今昔** (上大崎・東五反田・西五反田) 2～3ページ

＊ **100号への祝辞** 2～3ページ

＊ **俳句・川柳・短歌** **投稿** 8ページ
(第一日野小、日野学園、第三日野小、第四日野小、児童センター他)



編集会議に参加する度、新たな学びがあります。
池田 法子



皆さんに楽しく役立つ情報をお届けしていきます。
水口 優子



足跡をたどる機会に出会えて、幸せでした。
職員 倉恒 千速



地域の皆様の暖かい激励が結実しました。
所長 白鳥 仙太郎



100号発行に携わる事ができ光栄です。
職員 杉澤 司



第一号からの一歩、第百号からの一歩。今昔の流れが続く。
大竹 泰子

編集委員からのコメントです。

イラストは杉野服飾大学短期大学の学生さんに描いていただきました。

はなぐるま100号を発行するにあたり、「祝辞を頂きました。(順不同)

大崎第一地区町会自治会連合会

会長 近江清光

「はなぐるま」発行100号を、心からお祝い申し上げます。創刊は平成元年1月、新聞名は公募により「はなぐるま」とし、大崎第一地域ニュース紙として、心なごむ町を作り、人と人との心のふれあいを深めようと発刊されました。

平成24年4月号で記念すべき100号となり、地域の情報誌として住民の間に根をはり、町会・自治会・学校・PTA・敬老会へ話題を提供し、共有化することで絆が深まっており、これからの「はなぐるま」に期待をしております。

品川区青少年対策大崎第一地区委員会

会長 伊藤達雄

「はなぐるま」発行100号おめでとうございます。ママな取材、丁寧な編集と、毎号毎号の紙面からは編集委員の方々のエネルギーが伝わってきます。

情報の他にも地域の方からの投稿や俳句・短歌・川柳欄への投稿と、熱心な地域の人々に支えられてもいます。今後、他のミニコミ紙にはない独自の観点からの記事を掲載し続けて下さい。

200号を目指して「はなぐるま」編集のタスキを引き継いでいって欲しいと願っております。

第一日野小学校校長 酒井敏男

「はなぐるま」が発刊されてから100号とのこと、まことにおめでとうございます。関係者の皆様のご努力に心からの敬意と感謝を申し述べたいと存じます。

昨年3月11日の未曾有の被害を出した東日本大震災の発生以来、地域の「絆」の大切さが再認識されています。そのような環境の中で「はなぐるま」が地域の人と人をつなげる役割を果たしていることはまことに意義深いものがあります。「はなぐるま」が今後も地域の情報提供の役割を担い、活躍されることを期待しております。



わが街今昔

「わが街今昔」をテーマに、各地区を編集委員が取材しました。

上大崎

上大崎地区の町会長の皆様にお集まりいただき、懇談会形式で小さい頃のお話など昔の様子を伺いました。

(以下敬称略)

伊藤晃司 (相生会)

長谷川岱潤 (上大崎一丁目町会)

関塚洋 (上大崎一丁目第一愛誠会)

井手康男 (上大崎池の谷町会)

中崎政和 (夕陽会)

西春雄 (目黒駅前西口町会)

宮澤輝男 (中丸親和町会)

今井基雄 (上大崎長者丸町会)

田中義英 (上大崎長者丸町会)

▼小さい頃のまちの様子？

西「江戸時代からの由緒あるお屋敷町だった。もともと『夕陽岡』と呼ばれ、富士の眺めが素晴らしく、歌川広重の浮世絵にもある。昭和の初めに現ドレメ通りの両側が住宅地として、一区画二百坪から四百坪単位で本格的に開発された。」

井手「昔から住宅街で、豆柿のある大きなお屋敷もあり、小高い竹藪、笹山がある湿地でよく遊んだ。弁当屋の大増がある場所は、ヤゴがいっぱいいて、トンボをとって遊んだ。」

長谷川「父(大正4年生まれ)は戦前、第三日野小の坂でスキーをしたり、池田山の狸を追いかけてたりして遊んでいたらしい。寺町周辺(現・上大崎一丁目)は戦争で焼けてしまったが、清岸寺の本堂は焼けずに残った。」



焼け野原となった上大崎・五反田(昭和23年)

田中「長者丸(上大崎二丁目)周辺はもと吉田さんの所有で、家の数はそんなに多くなかった。〇〇さんの坊やとすぐに分かり、悪いことが出来なかった。その後土地を分譲し今のような住宅地になった。そのため、吉田さんに感謝する碑がある。」

関塚「三田用水があり、今も管が残っている。」

井手「上大崎は、竹藪・田んぼの湿地帯で水車が回っていた。洗い張りをやっている家が2軒あった。今でも水が湧いている。」

▼終戦前後の様子？

今井「目黒通りにあるコンビニから幅6〜7mの道があり、インドネシア大使館から煉瓦作りの山手線ガードへと繋がっていたが、空襲で火除けを作るため壊された。車がすれ違えない細道だった。目黒通り向かいには、海軍大学(現在の白金幼稚園、UR団地)で、占領軍がいた。」



都電が走る目黒駅前(昭和42年)

毎年のOB会に現在でもご夫妻でお越しになられる。終戦直後の自然教育園は柵が無く自由に入れて遊べた。野犬がはびこりかみ殺された人もいた。長者丸から天現寺までの都電が通っており、慶応幼稚舎の子供たちが利用していた。」

伊藤「昭和38〜41年に住居表示の変更があった。私は第三日野小からNTT関東病院周辺の下大崎二丁目(現在の東五反田四丁目)に住んでいた。雉子神社・相生坂周辺が下大崎一丁目だった。」

中崎「戦後は都電が道路の真ん中を走っていた。東京オリンピックで道路拡張があり、脇は車一台通れた。現在の誕生八幡神社は、道路のすぐ近くに鳥居があるが、昔は10m位の道があった。」

田中「昔の自然教育園は火薬庫で、今でも長者丸には火薬を運ぶレールの跡と思われる場所が残っている。」

宮澤「目黒駅西口には久米さんの屋敷があり、竹藪には狸が出た。昭和35年頃、権之助坂や三井銀行のあたりには桜並木が続く、道路は石畳で雨が降ると自転車が滑った。」

日野学園校長 青木 経

「はなぐるま」100号発行おめでとうございます。「はなぐるま」では日野学園のさまざまな学校行事や地域での活躍を取り上げていただいております。毎回の発行を楽しみにしております。校内にも「はなぐるま」を掲示して来校者の方々に見ていただいております。日野学園も地域に根ざした特色ある一貫校作りにより、なお一層励んでいきたいと思っておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



第三日野小学校校長 甲斐正教

「はなぐるま」100号発行おめでとうございます。私はこの1月より第三日野小学校の校長に就任いたしました。着任当初は、地域のことがよくわかりませんでした。しかし、地域センターより「はなぐるま」を何号か送っていただきその内容を読むことで、地域の様子や活動の様子が少しずつではありますが理解できるようになりました。今後も地域の情報を共有化することで、地域の皆様の結びつきが深まっていくことを願っております。



第四日野小学校校長 平井一浩

大崎第一地域ニュース「はなぐるま」の100号発刊を心からお祝い申し上げます。深く感謝いたします。「はなぐるま」で、本校の教育実践をたびたび紹介して頂いております。その度に、教職員の喜びに繋がっており、子どもたちの励みになっています。今後も第四日野は、「近い・安心・安全」をモットーに、地域の皆様・保護者の皆様と共に、子どもを育てる学校になってまいります。「はなぐるま」共にご支援宜しくお願いいたします。



大崎第一地域センター所長 白鳥仙太郎

桜咲くこの時期に、創刊後24年目で記念すべき100号を迎えることができました。地域の皆様、関係者の方々のご支援ご協力に心より感謝申し上げます。この記念号は編集委員の皆様のご力作です。保存版としていただき、今後とも末永くご愛読いただければ幸いです。



東五反田

五反田駅周辺を中心に、東五反田地区の昔話を当地に長く住まわれている方々の思い出からまとめました。昭和初期から30年代初期の頃までの東五反田地区は、今は大分様子が違っていったようです。

商店街は今よりもっと東西に長く、商店の数も多く賑わっており、映画館も5軒あったそうです。料亭も多くあり、必然的にそこで働く芸者さん達もかなりいたようです。川沿いの料亭では目黒川に川船を出して川遊びをしたという話も聞きました。明治生まれの方からは目黒川で魚釣りをしたり、泳ぎもそこで覚えてたと聞きました。今ではビジネスの街、人々が働きに来る街ですが、その昔は人々が遊びに来る街だったようです。駅前「有楽街」はその当時の名残でしょうか。五反田駅東口のロータリーは都電の発着所でした。今の桜田通りからは富士山がとてよく見え、遠くに行き交う船の汽笛も聞こえたそうです。



目黒川（昭和7年頃）

駅にまつわる面白い話もあります。一つはJR五反田駅。山手線が出来た当初は、大崎、目黒だったのを後から五反田に駅を作ったので五反田駅は高いところにあるのだという話。もう一つは東急五反田駅。池上線は当初大崎広小路が終点だったそうです。それを後から五反田まで

で延ばすことにしたのだが、駅舎の場所がなく高いところに作ったのだという話。確かに二つの駅とも高いところに位置しています。



五反田駅（大正14年）

西五反田

西五反田にお住まいの石井さん99歳にお会いし、今日では想像も出来ないような昔の様子を伺いました。

子供の頃の思い出―大正時代の西五反田―

西五反田在住 石井一郎

私の生まれた所は「東京都荏原郡大崎町字桐ヶ谷村」（現在の品川区西五反田4丁目）で、古くから「日野ノ庄」と呼ばれていて、この名前は今でも学校名などに残っています。

私が子供の頃、このあたりは田んぼが多く、水車小屋もある静かな村でした。あちらこちらにたくさんの竹藪もあり、美味しい「竹の子」の産地としても有名な村に困らせていました。



筍掘りの様子（昭和戦前）

でした。村には「竹の子」や小川で取れた「ドジョウ」を主とする料理屋もありました。

周囲は丘陵地帯で、桐ヶ谷の地名にも由来する桐の木も多く、そのせいか村には筆筒職人や飾り職人など桐筆筒作りに係わる各種の職人がたくさんいました。私の家は不動前で郵便局を開いていましたが、郵便物以外に米や本なども扱ってました。

当時の村には狭い道が東は品川へ、西は目黒不動の参詣道が世田谷へ抜けていました。目黒不動は縁日にはとても賑わいましたし、私の家の近くには馬頭観音もありました。

当時の子供の遊びは、ベーゴマ、毬つき、縄跳びのほか、春は小川で魚取り、夏は蛸や蝉やトンボ取り、秋は山で栗拾い、冬は凧上げ、羽根つき、双六などでした。

また目黒川は人や米、野菜、石などを運ぶ船の往来で賑わっていましたが、子供も綺麗な水で水泳や魚釣りを楽しみました。村の精霊流しや七夕流しは昭和30年頃まで続いていたと思います。しかしこの目黒川もひとたび大雨の時には一変して氾濫する暴れ川となり、ごく最近まで村人を困らせていました。

こうした自然豊かな農村が100年足らずで今日のような大都会に変わるとは、私には想像もできませんでした。縁有つてこの街に生まれる皆様には一度この「日野の村」の昔の風景に想いをめぐらせて戴ければ幸いです。



石井さん

写真提供：長谷川町会長、郷土出版社『目で見る品川区の100年』、しながわWeb写真館(品川区)

100号までのあゆみ

1989年
(平成元年)
1月20日

①地域ニュース創刊号発行(1号)

②地域ニュース名が「はなぐるま」に決定(2号)

③大使館紹介(2・32・36・41号)

④この街この人「地域の匠紹介」(4・6・11号)

⑤地域探訪 パート1(8・10号)

- ・戦争体験 ―戦後50年を迎えて―(22号)
- ・品川区防災センター見学(23号)
- ・阪神淡路大震災義援金 7350万円(25号)
- ・行ってみました「しながわ出会いの湯」(26号)

1989年
天安門事件やベルリンの壁崩壊といった歴史的な出来事がありました。

かむろ山
遊女小紫のかむろ(遊女の使う幼女)が暴漢におそわれ、逃げきれずここにあった池に身をなげけて死んだことに由来。

①地域ニュース創刊号発行

地域ニュースは1989年(平成元年)1月20日より発行開始しました。次々と新しいマンションが建ち、生活している人たちも少しずつ変化するなか、「地域内の話題を取り上げ、人と人の心のふれあいを深める」ことを目的としてスタートしました。



③大使館紹介

発行当時管内にあった大使館へ行き、様々なお話を伺うことで、国際時代を生きるための相互理解の第一歩となりました。

- ・コロンビア共和国(2・41号)
- ・インドネシア共和国(2号)
- ・ガボン共和国(32号) ※現在は目黒区へ移転
- ・ザンビア共和国(36号)

⑤地域探訪 パート1

- 「めぐろのさんまの里まであるく」、「桐ヶ谷の里から目黒不動まで」というシリーズで、編集委員は編集長の案内で一巡しました。
- ・久米美術館、三条邸跡碑、千代が崎、三田用水、茶屋坂(8号)
 - ・安楽寺、氷川神社、日本酸素記念館(9号)
 - ・行元寺、自然教育園、目黒不動(10号)

②地域ニュース名が「はなぐるま」に決定

「はなぐるま」という名前は、2号発行の際に公募により決まりました。緑の少ない東京に四季の花を咲かせ、心のごむ街をつくってほしいという願いが込められています。



「はなぐるま」とは…
花で飾った車、花を積んだ車、花見の車。(広辞苑より)

④この街この人「地域の匠紹介」

- 東五反田にお住まいの職人・芸術家の方々を紹介しました。(以下敬称略)
- ・飯島義著 (囲碁や将棋盤の製作)
 - ・神郡愛竹 (書家)
 - ・無量塔蔵六 (ヴァイオリン製作)
 - ・小金丸幾久 (彫刻家)
 - ・下田一郎 (提灯製作)

⑥地域探訪 パート2

- 「氷川神社にも滝があった」、「かむろの由来」など、地域の歴史を取り上げました。
- ・氷川神社(31号)
 - ・底なし池、白金猿町(33号)
 - ・かむろヶ池、かむろ山(34号)



かむろ坂

2003年
(平成15年)

2002年
(平成14年)

2001年
(平成13年)

2000年
(平成12年)

1998年
(平成10年)

1996年
(平成8年)

⑥ 地域探訪 パート2(31、33、34号)

- ・東急目蒲線立体交差事業進行中(38号)
- ・「いきいき崎一健康会」発足(39号)

・雉子神社例大祭に大神輿(47号)

・ケアマネジャー紹介

上大崎在宅介護支援センター(49号)

⑦ 「はなぐるま」50号を迎える(50号)

ガリ版からスタートした「はなぐるま」も、50号の紙面からは全てパソコンの文字になりました。

⑧ 目黒川探訪「おっとこ探偵団」(51〜54号)

⑨ 品川山脈 縦走(55〜57号)

・不動前駅通り商店街紹介(58号)

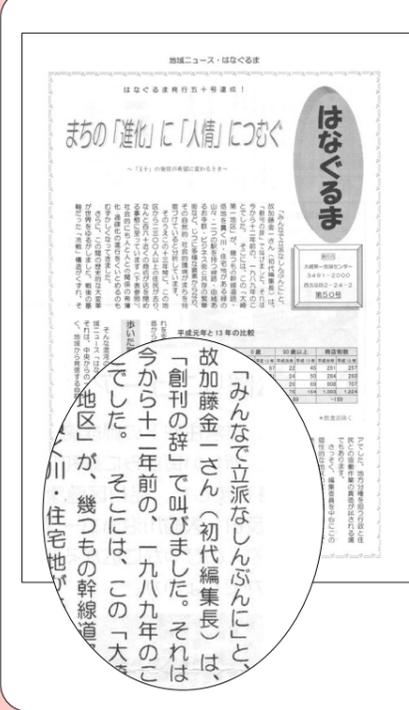
⑩ ポイ捨て禁止条例が施行(59号)

大崎

秩父山より続く尾崎に由来。

⑦ 「はなぐるま」50号を迎える

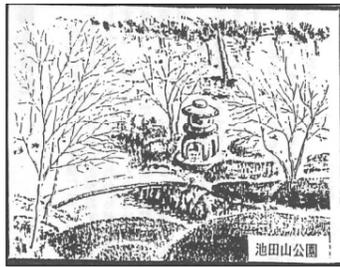
「みんなで立派なしんぶん」と、故加藤金一さん(初代編集長)は創刊号で叫びました。「はなぐるま」がわたたしい日常の中にも、生きる勇気が湧いてくる「場」となるよう、創刊当時の精神を再確認しました。



⑨ 品川山脈 縦走

なんと、管内には5つもの山があります。その山々を実際に歩き魅力に迫りました。

- ・長者丸(55号)
- ・花房山、池田山(56号)
- ・島津山、御殿山(57号)



池田山公園のイラスト

⑩ ポイ捨て禁止条例が施行

平成15年10月1日に「品川区歩行喫煙および吸い殻・空き缶等の投げ捨てるの防止に関する条例」が施行され、五反田駅前でセレモニーが行われました。指定区域内の路上で、違反をすると指導をされ、さらに違反した場合、一万円以下の罰則が科せられます。



セレモニーの様子

⑧ 目黒川探訪「おっとこ探偵団」

目黒川の姿やまちなみの表情を、全長約8kmにわたり編集委員が徒歩で取材しました。

- ・目黒川始点〜緑橋 計13橋(51号)
- ・朝日橋〜谷山橋 計16橋(52号)
- ・木村橋〜東海橋 計12橋(53号)
- ・荏川橋〜若潮橋 計8橋(54号)



地域センター近くにある「亀の甲橋」



欄干には亀の絵があります

おっとこ探偵団の思い出 以前「はなぐるま」の編集部に「おっとこ探偵団」なるものがありました。この探偵団は、街に山に川にいろいろな所に出発しましたが、中でも圧巻だったのが「目黒川シリーズ」でした。大橋の先の此処が目黒川の始点という所から河口までを歩き記事にまとめていきました。

忘れられぬ取材の思い出 加藤みよ子 川の始点を訪ねてみますと、世田谷の烏山川あたりの小さな流れに金魚・ザリガニ・メダカが泳いでおり感激しました。北沢川と合流して目黒川になり東京湾までの流れには、人々の生活や歴史があって、川面の変化が面白く、その上にかかる橋に個性ある表情がみられ、本当に興味深い取材でした。皆さんも一度、散策することをお勧めします。4回シリーズで編集したことが一部の学校の教材として使われたと聞いた時は、編集員冥利に尽きる喜びでした。

2008年
(平成20年)

2007年
(平成19年)

2006年
(平成18年)

2004年
(平成16年)

・美術館めぐり(76号)

⑮五反田駅改装中(74号)

日本初の飛行船
1910(明治43)年、日本初の飛行船が大崎から目黒間の飛行に成功しました。

⑭まもるっち・83運動(74号)

・AED(自動体外式除細動器)設置(72号)
・第一、第三日野小学校、文化センター
改修工事始まる(73号)

・小中一貫教育全国サミット開催(70号)

⑬小中一貫校スタート(日野学園)(69号)

イナバウアー
2006年の流行語大賞は、荒川静香選手(フィギュアスケート)の特技に。

⑫地域センター引っ越し(60号)

⑪わが街(町会・自治会)紹介(60、68号)

⑬小中一貫校スタート(日野学園)
品川区では平成18年度から区立の全小中学校で一貫教育をスタートさせました。従来の六・三制を九年の義務教育制と捉えて柔軟に編成し、学力の向上と人間形成を図っていくとするものです。日野学園は、施設一体型小中一貫校の第一校目として開校しました。



上空から撮影(日野学園)

⑪わが街(町会・自治会)紹介
大崎第一地域センター管内31町会を地図で紹介する企画が始まりました。

はなぐるま
「はなぐるま」は、大崎第一地域センター管内の町会・自治会を紹介する企画です。町会・自治会の名称、役員、連絡先などを掲載しています。また、町会・自治会の活動や行事についても紹介しています。

編集会議に参加しませんか? また、興味のある方・管内に詳しい方、いらっしやいましたらご連絡ください。
*「はなぐるま」は、大崎第一地域センターにおいてあります。また、ホームページもご覧下さい。
<http://www.2city-shinagawa.tokyo.pjnyo/01/1/140207.html>

⑮五反田駅改装中
山手線五反田駅が誕生したのは、明治44年10月で当時から今と同じようにホームが上にありました。平成20年4月に改装が完了し、平成23年10月15日には開業100年を迎えました。

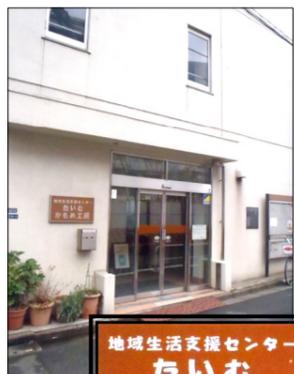
⑭まもるっち・83運動
品川区では、子供の危険を未然に防止する目的で小学生全員に「まもるっち」を貸与しました。また、83運動とは、小学生の登下校時間である8時と3時に、なるべく外の用事を行い子供を見守ろうというもので、平成17年度に始まりました。



まもるっち



⑫地域センター引っ越し
平成12年4月より「出張所」は「地域センター」へ名称が変わりました。平成16年1月からは、荏原青果場(通称・やっちゃば)跡地へ移転しました。現在、出張所の跡地には「地域生活支援センターたいむかもめ工房」があり、精神障害のある方々が安心して生活できるよう支援しています。



地域生活支援センター
たいむ
かもめ工房

⑩ ティーンズフラザ中原オープン(77号)

⑪ わが街の学校紹介(81〜90号)

⑫ 地域を支える人々(91〜95号)

⑬ わが街の保育園・幼稚園紹介(96号)

100号発行

はなぐるま100号を迎えて

平成元年に鉄筆とガリ版でスタートしました「地域ニュース」が「はなぐるま」に育ち、このたび100号を迎えました。長い間のご愛読を編集委員一同心から感謝申し上げます。この100号はこれまでの歩みを振り返る、かつてない大型紙面といたしました。皆様にご満足を戴ければ幸いです。この街に住んで良かった、この人に会えて良かった、そんな街づくりのお手伝いをするために、「はなぐるま」はこれからも地域のニュースを「そよ風」のようにお届けしていきたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。

「はなぐるま」編集長 久保田公二

200号を目指し、編集委員募集中

この記事を読んで興味を持った方は、是非一度編集会議にお越しください。新しい発見があります。

『変』
2009年今年の漢字は、民主党政権交代やオバマ大統領就任にちなみこの漢字。

⑭ ティーンズフラザ中原オープン

平成20年4月に新しくオープンし、特に中高生の活動に力を入れていきます。音楽、食、遊びを通じて世代を越えた出会いと交流の場を目指しています。



音楽スタジオ

⑮ 地域を支える人々

私たちの生活の安全・安心を守る為に日夜努力している方々取材しました。

- ・品川消防署 (91号)
- ・大崎警察署 (92号)
- ・品川区清掃事務所 (93号)
- ・民生委員、児童委員、主任児童委員、保護司 (94号)
- ・品川消防団 (95号)

⑯ わが街の保育園・幼稚園紹介

近年、私たちの街にも若い世代のファミリー層の姿が多く見られるようになってきました。そこで、学校紹介シリーズに続き、就学前施設の紹介を始めました。

- ・就学前施設の制度 (96号)
- ・施設一覧マップ (97号)
- ・東五反田保育園、五反田保育園、ポピンズナーサリースクール東五反田 (98号)
- ・西五反田保育園、学研こども園、宝保育園 (99号)

⑰ わが街の学校紹介

私たちの街には小学校から大学まで沢山の学校があり、次世代を担う若い世代が育っています。管内の学校を順次訪問しました。

- ・清泉女子大学 (81号)
- ・第一日野小 (82号)
- ・攻玉社 (83号)
- ・杉野学園 (84号)
- ・第三日野小 (85号)
- ・第四日野小 (86号)
- ・日野学園 (87号)
- ・東京医療保健大学 (88号)
- ・宮川文化服装専門学校 (89号)
- ・立正大学 (90号)



清泉女子大学

初代編集長 故加藤金一さんを偲ぶ

「人とのふれ合い、皆に愛される新聞に」と尽力下さった加藤金一さんは終戦後シベリアから上大崎に引き揚げて来られ、特技の騰写版事業(印刷業)を起こされました。その間、区内の郷土史の研究に心血を注ぎ、たびたび区民を史跡巡りに案内してくださったり、町内の子供たちを集めて得意の絵で楽しませ、「カトキンちゃん」と呼ばれ親しまれていました。

長かったシベリアでのご苦労など微塵も感じさせない温かい人柄でした。

「はなぐるま」の編集の際は管内の名所・旧跡を案内して下さり、取材から帰るとそれぞれが記事を書く楽しみもあり、本当に良い思い出の6年間でした。ありがとうございました。

(加藤みよ子)



俳句・山柳・短歌

第一日野小 六年

春になり勉強野球がんばるぞ 張智輝
桜こそ列れを告げる言葉かな 安藤涼
つばみてもいつしかきつと花になる 菅井智大
つばみ見てつまっているもの笑顔たち 濱田佳菜子
あれなんだよく見て見たらつばめの巣 米元准平
春風のおいを残すあたたかさ 高木詩歩
春になり朝の太陽輝いた 平井竜聖
桜の本ヌジロとまれば春が来る 佐藤慶太郎
春になり入学式で輝くみんな 工藤葵
溶けてゆく残る雪見て春が来る 川俣文乃
春きたり桜まいちる目黒川 黒澤明
春風がぼくのぼうしを包み込む 藤田竜也
雪とけてうぐいす鳴いた春の朝 除川杏実
桜には小さい幸せあるんだよ 荒木麗音
春風に吹かれ喜ぶ鳥や花 小松珠寿

日野学園 六年

秋晴れで戦場ヶ原輝いた 菊地光輝
秋の日の寒さ感じる白い滝 高城真也
秋の日に自然の緑たきの水 永田廣弥
ハイキング自然の中に宝あり 富田玲欧
雪景色紅葉と一緒美しい 齋藤綺咲

第三日野小 六年

山も岩も白いゆかたを身にまとい 遠田大河
雪が降り凍てつく風が吹きし滝 匂坂翔真
竜頭の滝竜の如くにいきましく 竹下舞花
川の上キラキラ光るたから物 橋本剛士郎
美しい戦場ヶ原雪の道 大道登陽
秋の滝岩をもうがち川となる 矢口通人
滝の水ふぶきのように寒かった 佐々木里歩
雪どけを草にうながす日の光 藤原勇真
男体山紅葉終わり雪積もる 西村魁
この旅はみな心の心がたきの音 古賀靖大
秋の風寒いと思えば冬近し 田代新
秋晴れの空にかがやくたきの水 小松ゆい
紅色の紅葉散り去るいろは坂 坂田拓人
秋晴れに堂々とたつ雪の山 寺本優花

第三日野小 六年

全てのもの今こそ起きよ春の力 陶卓異
卒業だ今はサヨナラまたいつか 山田知紗子
雪が降り子は喜んで親がつくり 後藤春花
チヨコづくりゆれる想いが永遠になる ナテイラアヴィシナ
雪が溶け春のそよ風日を受けて 姉崎準
新校舎みんなとすごすこの一瞬 石川宗汰
思い出は全て頭のアルバムに 清水晴哉
六年間思い出つまったランドセル 佐藤佳音

第四日野小 五年

卒業だ一歩ふみ出す桜道 福山知華
雪の降る寒さにたえて芽吹く夢 物部千央
銀世界思いのつまった雪だるま リフエイバーレライシア 杏
春が来た心も体もリニューアル 志村陸斗
永遠に卒業しても友だちさ 小池春花
この思い在校生に引き継いで 黒田愛
卒業生桜のように咲きはこる 配島里奈
新年のもらつてうれしいお年玉 添田藍海
お年玉もらつてすぐになくなるよ 北川矢士真
お正月ねらうはやっばりお年玉 市川想生
今年こそ絶対見るぞ初日の出 熱田馨
友達とみんなで見よう初日の出 深野颯
お正月今年辰年年女 松崎理咲
初日の出みんなで新年むかえます 吉田実彩希
初日の出新年むかえるあいさつだ 柳井眞子
羽根つきで終わったあとと真っ黒け 北村博太
おそ起きて今年も見れない初日の出 池田萌
初もうで今年も抱負願います 長堀祥
初夢がよくも悪くもがんばろう 武祐希
初もうでお金を投げて手を合わせ 大久保水葵
今年も元気でがんばります 佐藤未佳
春が来る桜が咲くよピンク色 花見をやろうみんなとね

第四日野小 五年

初もうで福神様にきてほしい 鈴木実里
だから自分の住所伝える
中原児童センター
おしょうがつみんなわいわいわらいごえ 小一 栗崎蒼生
だいすきなママにもらったベビーベア 小一 山路かれん
おとしだまみんなにもらったうれしいな 小一 遠藤瑠奈
さくらの木はなびらひらひらきれいな 小三 柴田しゅう
冬休みいっぱい遊んで楽しいな 小四 鈴木杏菜
うぐいすがホケキョと鳴くよ春が来る 小六 秋津舞
友達とみんな遊ば楽しいな 小六 阿部美友
館長のダジャレたまにはおもしろい 高一 森岡秀太郎
ライブ時のホリの髪型リーゼント 高一 福富雄大
一葉散り地に足踏みて春を待つ 高二 島崎伸作
風にのり羽子板にのる鳥の歌 高三 河西健人

しながわ川柳クラブ

百子で絆つよめたはなぐるま 飯田芳郎
年金は有りや無しやの百年後 斎藤進
百子は未来につづく道しるべ 薄井儀広
当たれよとお百度参り宝くじ 田中勝義
お正月やはり最初はお年玉 小四 宮森久悟
百輪の華にも勝る笑顔かな 佐藤瑞希
早口の百敷え切り湯を出でぬ 小森智恵子
早いもの仲間と一緒に苦心して ルール定めて毎日取材 稲葉正晴

一般投稿

春だネと駆けよる吾子の掌の中に 齊木昭子
若草の匂いつつまれており
こんこんと雪見て喜ぶ父娘 牧野みほ美
笑う子を見つめるまぶしいパパの顔 間地映子
お正月親戚みんな同じにお 安田羽海
初売りは太郎の服よりママの服 千枝章子
えんと泣き我が家にとつての除夜の鐘 石渡桂
蒲公英の売り切れとあり道の駅 山崎仁
古きには古きよさあり古雛 吉田弘
瑞気満つ棟上げ式の桜鯛 山上栄一
面つけて豆撒く声の麗らなり 駒沢子工子
寒晴れに廻る彩どり観覧車 斉藤洋子
山焼の風が火を呼び駆け上ぐる 小俣絹江
ウインドーのピエロも混ざる吊鐘 柴澄子
呼ぶ声の聞こえてをれど春炬燵 森眞澄
コンコンと命の泉湧き出する 燃ゆる血潮に酔う朝ぼらけ 北野能滋
初桜見せんと吾子を高く揚ぐ 宮森和子
はなぐるま絆きづいて二十年 水口優子
百才の駅舎にケーキとUNIQLOの店 加藤みよ子
百子に長寿の秘訣探す古希 久保田公二

計100名を超える方々から投稿いただきました。
本当にありがとうございます。